

平成26年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	リンドウホソハマキに対する数種殺虫剤の防除効果(追補)		
[要約] フルベンジアミド水和剤およびスピネトラム水和剤ともに、越冬世代羽化盛期とその10日後の2回散布による防除効果は、いずれかの時期の1回散布より高い。第2世代を対象とした場合も、やや効果は低くなるがこれら薬剤の2回散布による防除は有効である					
キーワード	りんどう	リンドウホソハマキ	防除効果	環境部	病理昆虫研究室

1 背景とねらい

りんどう栽培における重点防除害虫であるリンドウホソハマキ *Gynnidomorpha rubricana* に対し、ペルメトリン水和剤(商品名:アディオンフロアブル)の効果が劣る事例が県内複数地点で確認されていること、および本種に対する防除効果が高く、かつ作用点の異なる複数の薬剤を選抜し、以前に成果とした(参考資料4)。

ここではリンドウホソハマキに対して高い防除効果が示されたスピネトラム水和剤(商品名:ディアナSC)およびフルベンジアミド水和剤(商品名:フェニックス顆粒水和剤)を用いた圃場試験を実施し、効果的な防除方法を検討する。

2 成果の内容

- (1) フルベンジアミド水和剤およびスピネトラム水和剤ともに、越冬世代羽化盛期とその10日後の2回散布による防除効果は、いずれかの時期の1回散布より高い(表1)。
- (2) 第2世代を対象とした場合、やや効果は低くなるがフルベンジアミド水和剤およびスピネトラム水和剤の2回散布による防除は有効である(表2)。

3 成果活用上の留意事項

- (1) 平成26年11月現在、スピネトラム水和剤の適用作物は花き類・観葉植物、適用病害虫はアザミウマ類、オオタバコガ、ハモグリバエ類である。農薬選択の際には平成27年度病害虫防除指針を参考にするとともに、必ずラベルを確認し、使用基準を遵守する。
- (2) 薬剤抵抗性管理のため、作用点の同じ薬剤を、世代を跨いで連用することは避けること。

4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者等

県内各地の農業普及センター等の指導機関

(2) 期待する活用効果

りんどう栽培において、防除計画策定の参考となる。

5 当該事項に係る試験研究課題

(H24-07) リンドウホソハマキの効率的な防除体系の確立[H24~26/国庫補助]

6 研究担当者

羽田 厚

7 参考資料・文献

- (1) 千葉武勝(1989) リンドウホソハマキの発生生態について 北日本病虫研報 40:155-157
- (2) 鈴木敏男(1994) リンドウホソハマキの発生生態と防除 第3報 防除薬剤に関する2,3の知見. 北日本病虫研報 45:212.
- (3) 羽田 厚(2012) リンドウホソハマキに対する数種殺虫剤の防除効果 北日本病虫研報 63:230-232
- (4) リンドウホソハマキに対する数種殺虫剤の防除効果 平成24年度岩手県農業研究センター試験研究成果書 指導N0.16

8 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 リンドウホソハマキ第1世代幼虫に対するフルベンジアミド水和剤（フェニックス顆粒水和剤）およびスピネトラム水和剤（ディアナSC）の防除効果

散布薬剤		平成26年 6/5、6/16処理				平成25年 6/6、6/17処理				平成24年 6/5、6/15処理			
		6/26調査				6/26調査				6/25調査			
		調査 茎数	生長部 食害	被害 茎率	対無処理比	調査 茎数	生長部 食害	被害 茎率	対無処理比	調査 茎数	生長部 食害	被害 茎率	対無処理比
フェニックスWDG x2000	フェニックスWDG x2000	194.3	0.0	0.0%	0.0	210.3	0.3	0.2%	2.5	260.5	3.0	1.2%	7.3
フェニックスWDG x2000	無処理	144.5	2.0	1.4%	18.9	192.0	3.0	1.4%	22.5	195.0	6.0	3.3%	20.6
無処理	フェニックスWDG x2000	255.5	3.5	1.2%	16.2	200.7	3.3	1.7%	27.2	データなし			
ディアナSC x2500	ディアナSC x2500	191.7	0.0	0.0%	0.0	181.3	0.3	0.2%	3.2	344.5	0.5	0.1%	0.9
ディアナSC x2500	無処理	184.0	5.0	3.0%	40.0	186.7	0.3	0.2%	2.6	236.0	3.0	1.3%	8.0
無処理	ディアナSC x2500	220.0	1.5	0.8%	10.1	164.0	0.5	0.3%	4.9	データなし			
無処理	無処理	181.7	13.7	7.5%	100	217.0	13.0	6.3%	100	178.0	28.0	16.2%	100

摘要 平成24年は花巻市の現地圃場、平成25年、26年は岩手県農業研究センター内圃場で実施した。薬剤処理は動力噴霧器で1区あたり5リットルを散布した。展着剤は加用しなかった。なお、いずれの年次も1回目の処理時には、生長部食害は観察されなかった。表中の数値は、2~3反復の平均値を示している。なお、試験実施年次における岩手県農業研究センター内のリンドウホソハマキ越冬幼虫の蛹化、羽化時期は右表の通りである（岩手県病害虫防除所の調査データによる）。

	蛹化開始	羽化開始	羽化盛期
平成26年	4月25日	5月15日	6月9日
平成25年	5月7日	5月27日	6月3日
平成24年	5月1日	5月25日	6月7日

表2 リンドウホソハマキ第2世代幼虫に対する数種殺虫剤の防除効果

散布薬剤	散布前調査(7/20)			散布後調査(8/14)			被害茎率 増加分 (②-①)	被害茎率 増加分 対無処理比
	調査 茎数	生長部 食害茎数	被害茎率 ①	調査 茎数	生長部 食害茎数	被害茎率 ②		
フェニックスWDG x2000 2回散布	277	30	11.0	240	29.5	12.3	1.3	8.2
ディアナSC x2500 2回散布	230.5	32.5	13.8	216	31	14.3	0.5	3.3
アデオンFL x1500 2回散布	225.5	24	10.8	217	35	17.1	6.4	40.0
ジェイエースSP x1000 2回散布	412.5	32	6.4	367.5	29.5	7.0	0.6	3.7
無処理	260.5	32	12.9	222.5	63.5	28.8	15.9	100

摘要 実施場所：岩手県農業研究センター内圃場 処理：平成25年7月20日、8月3日
表中の数値は、2反復の平均値を示している。